

PCM-DSD_Converter の評価(3)

—512sDSD への変換(3)—

1. 始めに

[前報\(2\)](#)に引き続き、PCM-DSD_Converter により 352.8KHz と 384KHz 音源を 512sDIFF に変換してみました。

2. PCM-DSD_Converter による 512sDSD への変換

変換前の 352.8KHz, 24bitWAV と 352.8KHz, 32bitWAV 音源は 2L や Justlisten などからダウンロードしたものです。また、384 KHz, 32bitWAV 音源は PROSOUND の付録の中の音源です。

変換については変換前音源のフォーマットが違うだけで、前報(1)や前報(2)とまったく同じ手順で変換します。

352.8KHz, 24bitWAV と 352.8KHz, 32bitWAV 音源は問題なく 512sDIFF に変換できました。

なお、48KHz 系の 384KHz 音源も実施してみました。見かけ上 512sDIFF に変換できたようになりましたが、HQPlayer での再生は出来ませんでした。そこで 384KHz, 32bitWAV 音源は TASCAM Hi-Res Editor であらかじめ 352.8KHz, 24bitWAV に変換し、これを 512sDIFF に変換することにより HQPlayer での再生が可能になりました。

2. PCM-DSD_Converter による 512sDSD 変換音源の試聴

試聴は、512sDIFF 音源と変換前の音源を外付け HDD に収納し、512sDIFF 音源を HQPlayer と micro iDSD により再生し、変換前の 352.8KHz, 24bitWAV および 352.8KHz, 32bitWAV、384 KHz, 32bitWAV 音源は Hi-Res Editor で再生しました。変換前の 352.8KHz, 24bitWAV および 352.8KHz, 32bitWAV 音源と変換後の 512sDIFF 音源を比較してみますと、512sDIFF の方が音に柔らかさがでてきます。変換前の 384 KHz, 32bitWAV 音源と変換後の 512sDIFF 音源を比較してみますと、同様に 512sDIFF の方が音に柔らかさがでてきます。この場合、384 KHz, 32bitWAV 音源と同時に DSD 録音した 256sDIFF もありますので、これとも比較してみました。384 KHz, 32bitWAV 音源からまわり道で変換した 512sDIFF より、256sDIFF の生録の方が音に深み、広がりがあり、DSD 生録音の良さを感じ取ることができました。

4. まとめ

PCM-DSD_Converter により 352.8KHz, 24bitWAV および 352.8KHz, 32bitWAV 音源は問題なく 512 s DIF に変換でき、384KHz, 32bitWAV 音源は TASCAM Hi-Res Editor であらかじめ 352.8KHz, 24bitWAV に変換しておくことにより 512sDIF に変換できました。音質的には 512sDIF に変換すると音が柔らかくなる傾向がありますが、好き好きで元のハイレゾ WAV を好む向きがあるかもしれません。PCM 録音からの DSD 変換したものより DSD の生録の方が好みにあいました。

以上